

平成25年3月27日発表

担当課：熊谷図書館

(熊谷市) 記者クラブ取材情報

事業の名称等 「～没後100周年記念～

奥原晴湖展」の開催について

1. 実施日時等 平成25年4月2日(火) 午前・午後9時00分
～平成25年5月12日(日) 午前 午後 5時00分まで
2. 会場・主催地 熊谷市立熊谷図書館 美術展示室
3. 主催者・関係者
(1) 団体名等 主催：熊谷市立熊谷図書館
(2) 代表者名 熊谷図書館長 齊藤道夫 TEL 熊谷図書館 048-525-4551
4. 事業内容 今年、古河に生まれ、熊谷で没した近代南画家の巨匠である奥原晴湖が没して100周年の節目の年にあたります。それを記念して、古河歴史博物館のご協力の元、古河・上野時代から熊谷時代の晩年に至るまでの晴湖の代表的な作品(市指定文化財を含む)と、その作品の元となった粉本(スケッチ)を展示し、併せて記念講演会とゆかりの地・現地見学会を実施します。出品作品数：45点
5. 目的・理由 日本の近代南画家を代表する作家・奥原晴湖の作品を展示することで、その作品の素晴らしさを堪能していただくとともに、熊谷にゆかりのある作家を広く多くの方に知っていただくことを目的としています。
6. 経緯・経過 過去に当館で昭和58年に「奥原晴湖展」を開催していますが、古河歴史博物館の全面協力による企画展は今回が初めてとなります。
7. 影響・効果 熊谷ゆかりの作家は数多くいますが、全国的に有名な作家を取り上げることで、郷土熊谷ゆかりの美術・芸術を多くの方に知っていただき、「芸術のまち」としての本市を知っていただくことができると考えられます。
8. この事業の実施による特記事項 今回展に併せて記念講演会と現地見学会を行います。
記念講演会：4月16日(火) テーマ「奥原晴湖の生涯と作品について」講師／稲村義雄氏(晴湖を偲ぶ会会長) 場所／熊谷市立熊谷図書館 4階第一講座室、現地見学会：4月23日(火) 龍淵寺・奥原晴湖終焉の地(熊谷図書館で大型バスを用意します)

(1) 県内の状況

ア 県内で初めて イ. 県内で 番目 実施市別紙のとおり

- (2) 他市が実施している事業に比べて本市の特色 奥原晴湖を、没後100周年という節目の年に取り上げるのは全国的に本市が初めてです。また、生まれた地である古河歴史博物館の全面協力により、古河に残る代表作も展示できたことが、今回展の大きな特色の一つです。

・他市と同じ

※ 資料の有無 (有) ・ 無)

担当課 熊谷図書館 担当者 主幹 金子正之

連絡先 TEL 048-525-4551

没後一〇〇周年記念

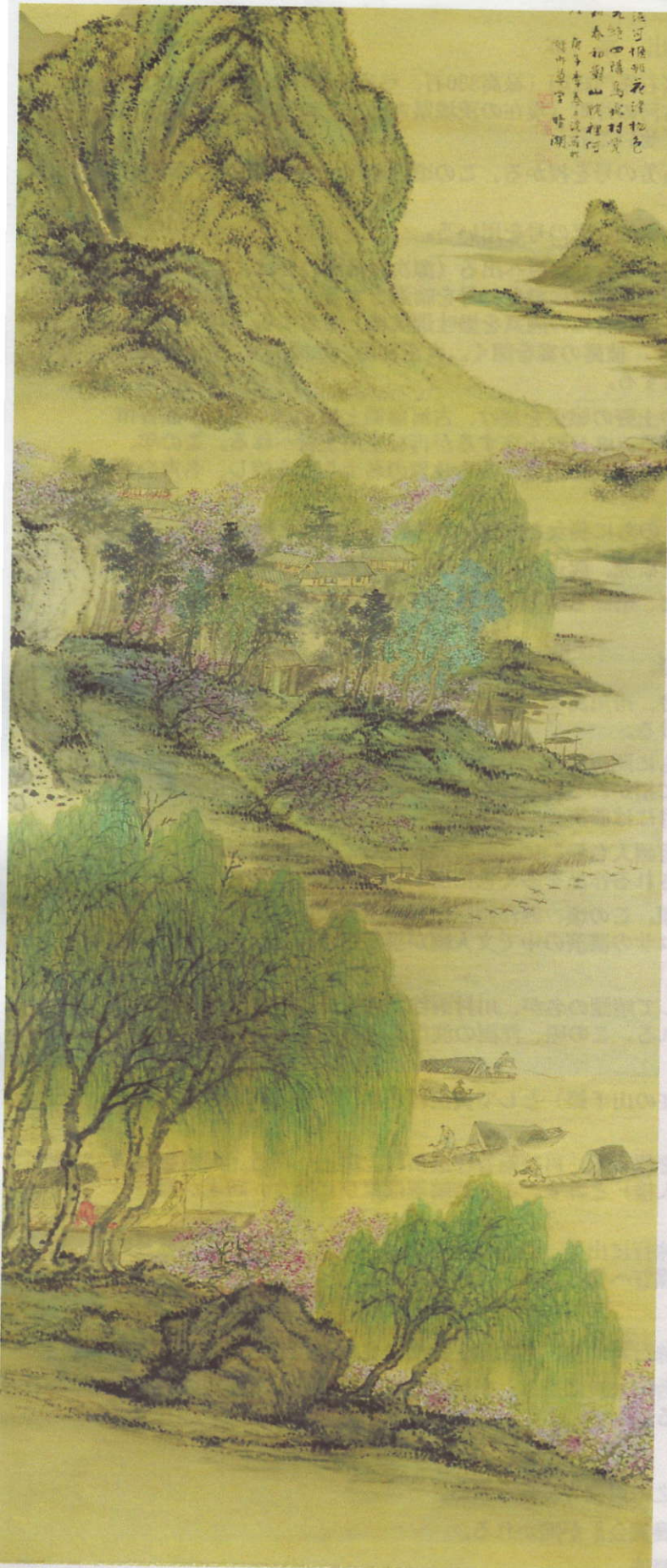
奥原晴湖展

会期：平成二五年四月二日（火）

五月一二日（日）

〔休館日：毎週月曜日（祝日を除く）、

4/5、4/30、5/7、5/10〕



垂楊桃花園（部分） 熊谷市指定文化財

時間：午前九時～午後五時

会場：熊谷市立熊谷図書館 三階 美術展示室

（熊谷市桜木町2-33-2 048-525-4551）

主催：熊谷市立熊谷図書館



年号	西暦	年齢	出来事
天保8年	1837		8月15日、父古河藩大番頭池田繁右衛門政明（禄高330石、弓術指南）、母同藩山中氏の長女きくの四女として、下総国古河の片町（現在の茨城県古河市）に生まれる。幼名は「せつ」または「節」、通称は「せいこ」。
安政元年	1854	18歳	絵を古河藩士枚田水石に学び、石芳の号を授かる。この頃古名画、特に明清諸大家の画を模写する。
安政5年	1858	22歳	この頃石芳の外に、秋琴、珠翠、雲錦などの号を用いる。
元治2年	1865	29歳	関宿藩士奥原源次左衛門帯刀の養女となり江戸へ出る（源次左衛門の妻は、晴湖の父池田政明の妹）。すまいを上野摩利支天横町におき、号を晴湖とする。この号はのちに東海晴湖などとした。仲御徒町3丁目74番地の画室を墨吐烟雲楼と命名する。12月3日、不忍弁天島の吉田亭にて、披露の宴を開く。大沼枕山、松岡環翠、鈴木鷺湖、福島柳圃、服部波山等25名が列席する。
慶応4年	1868	32歳	2月、1月に始まった戊辰戦争の上野の戦火を避け、古河藩領上川上村（現在の熊谷市上川上）稲村貫一郎氏のもとへ移る。3月に上京するが再び上川上村へ移る。この年、山内容堂、木戸孝允、大沼枕山らの画会に出席。彼ら政界の名士らと交流し、名声をあげる。
明治2年	1869	33歳	この年、小杉てる、15歳で入門。のちに養女となり、のちに奥原晴翠と号す。
明治3年	1870	34歳	この頃、清の画人鄭板橋の書風を研究。渡辺策入門。晴嵐と号す。
明治4年	1871	35歳	8月、男子の散髪脱刀令がでると、晴湖も断髪をする。11月、上野摩利支天横町に春暢家塾を開業する。
明治5年	1872	36歳	11月、宮中皇后陛下の御前で揮毫。
明治7年	1874	38歳	鷲津毅堂を盟主とし、小永井小舟、市川萬壽、川上冬崖らと半間社を結成。この頃、菅原白龍、晴湖のもとで指導を受ける。
明治11年	1878	42歳	1月、晴嵐・稲村貫一郎らとともに関西旅行。奈良では、のちに作品を残す月ヶ瀬の梅林をまわり、大阪では五代友厚に招かれる。京都では、谷鉄臣、岡本黄石、中西耕石、前田半田ら文人らと交わる。6月には勝海舟、川上冬崖らを訪ね、東京に帰る。
明治12年	1879	43歳	大日本書画人名鑑編『皇国名誉書画人名録』に、閨秀画家として晴湖の名が筆頭にのぼる。この頃から、東海書きと称される作品を多く世に出す。
明治15年	1882	46歳	1月、岡倉天心、晴湖に揮毫依頼。この頃、西洋画法の写実主義大いに流行。南画（文人画）没落の傾向あり。フェノロサの講演の中で文人画が排斥される。6月、春暢家塾を閉塾。
明治19年	1886	50歳	「東京名家表」に、画家十傑として晴湖の名が、川村雨谷、菅原白龍、滝和亭、渡辺小華、河鍋曉齋らとともにあげられる。この頃、洋画の流行による写実主義に刺激され、晴湖も写実的な作品を描く。
明治23年	1890	54歳	墨吐烟雲楼が鉄道敷設用地（現在の山手線）として買上げられ、3月、下谷仲御徒町3丁目22番地へ転居する。
明治24年	1891	55歳	2月、東京を去り、稲村貫一郎を頼って、再び熊谷在成田村上川上へ移る。画室を繡沸草堂（のちに繡水草堂、寸馬豆人楼）と称す。この時晴翠は東京に残り、晴嵐が熊谷へ従う。
明治29年	1896	60歳	3月、晴嵐らをとめない、北越旅行に出発。越後の素封家長谷川家（現在の新潟県長岡市塚野山）に2週間滞在。7月熊谷へ帰る。秋、上州に遊ぶ。
明治30年	1897	61歳	松島方面に旅行する。
明治31年	1898	62歳	1月、晴嵐らをとめない、関西旅行をする。名古屋・伊勢をまわり、5月に帰宅する。
明治33年	1900	64歳	晴嵐らをとめない東北旅行。仙台・米沢に遊ぶ。米沢では、明治5年以来交流のある小野三之助宅にて22日ほど滞在する。
明治42年	1909	73歳	滝脇進吉入門。晴華と号す。
大正2年	1913	77歳	7月28日奥原晴湖歿。熊谷市上之の龍淵寺に葬られる。
大正9年	1920		熊谷町有志主催『奥原晴湖遺墨展覧会』が開かれる。
昭和2年	1927		熊谷町立図書館主催遺墨展覧会開催。
昭和4年	1929		11月、晴湖の甥、池田多喜雄氏により、繡水草堂が古河の生家に移築される。これにもない、画室において、遺墨並びに遺品展覧会が開催される（16・17日）。12月、東京、上野美術館において遺墨展覧会が開催（8日～15日）。428点出品。
昭和58年	1983		熊谷市立図書館において「奥原晴湖展」開催（4/2～5/8）
平成22年	2010		この前年に、奥原家から古河市に、繡水草堂が寄贈され、古河歴史博物館に移築復元、公開される。古河歴史博物館において奥原晴湖画室繡水草堂移築記念「奥原晴湖展」を開催（3/20～5/5）。
平成25年	2013		熊谷市立熊谷図書館において、「～没後100周年記念～奥原晴湖展」開催（4/2～5/12）